



東京部会 (第 54 回)

日 時: 2012 年 12 月 18 日 (火) 19:00-21 : 15

場 所: 日本大学経済学部本部館中 2 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、野間(同志社大)、加藤(日大)、小巻(日大)、栗原(東洋大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(筑波大学附属中学校)、大川(川口市里中)、三枝(目黒区立中央中)、鈴木(日本経済教育センター)、榊原(東証)、石山(東証)、中沖(清水書院)、神尾(第一学習社)、中村(中小機構)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 新井先生より、配布資料『東京部会レポート』に基づき、まず最初に今後のWSの予定が取り上げられた。2月16日(土)の川口市里中学でのWS(案内・申込書の配布と大川先生よりの説明と確認の発言あり)、および2月8～9日の稚内でのWSの確認があった。さらに、3月23日の京都での総会の進捗状況が簡単に報告され、2月末までに中川先生を中心に流れを作成することになった。その他、最近新聞で取り上げられた先生方の記事が紹介された。
2. 次に、やはり新井先生より、夏休み経済教室の詳細が説明された。大阪の会場が天満橋の国民会館になったこと、90分の時間枠を約半分に分けて、経済学者と現場教員のコラボを実施すること、歴史は要望が多いので継続し、世界史では大恐慌について、また日本史では80年代のバブルとその後の展開などについて取り上げてはどうかといった発言あり。それについて、篠原先生より、恐慌やバブルなどの現象はきちんと金融の問題と結びつけて経済学的に説明する必要がある点が指摘された。
3. 野間先生より、『法学と経済学の連携教育を考える』、および『橋下市制を「公正」と「効率」の観点から検証する』が配布された。前者については法学と経済学の見方の違いが対比されており、後者については、家族の例などを使ってある意味での「公正」と「効率」の問題を対比させているもの。それぞれ内容に多少問題があるが、ある程度参考になるのではないかということであった。
4. 宮尾より、配付資料『短期の「公平性」と長期の「効率性」』:クラスでのアンケート結果』にしたがって、大学1～2年生を対象にした、公平性と効率性に関するアンケート結果が示された。アンケートの内容は、所得再分配によって短期的な公平性と効率性が達成できるが、それによって長期的な効率性が阻害されるかどうかというもの。アンケート結果は、阻害されるという意見と阻害されないという意見が、ほぼ同数という結果であった。このようなアプローチで効率性と公平性の関係が、より興味深く学べ理解できるのではないかとのことであった。

次回開催予定: 1月15日(火)19:00～21:00。場所は日本大学経済学部本部館中2階会議室)。議題は、3月の大会および夏の経済教室の内容の詰め、参加者からの活動報告、その他。